

University of Shizuoka Magazine

静岡県立大学広報誌

No.142
2021.February

はばたき



特集 1

健康食イノベーション推進事業

特集 2

コロナ禍における学生による支援活動

CONTENTS

p01 健康食イノベーション推進事業

p05 コロナ禍における学生による支援活動

p07 CAMPUS TOPICS

- ・「THE世界大学ランキング2021」に本学がランクイン
- ・女性向け防犯リーフレットの贈呈式を開催
- ・2020年度「健康長寿フェロー」および「地域みらいづくりフェロー」を認定
- ・本学名誉教授が大学発ベンチャー企業を設立
- ・グローバル地域センターが国際シンポジウムを開催
- ・食品栄養科学部環境生命科学科が課外授業（フィールドワーク）を実施
- ・2020年度 秋季学位記授与式を開催
- ・2020年度 秋季大学院入学式を開催
- ・清水銀行との連携による経営情報学部の人気講義を紹介する書籍を出版
- ・交換留学フェア2020を開催
- ・ツーリズム研究センターが開所記念講演会を開催
- ・第10回シーズ&ニースビジネスマッチング研究発表会での研究発表
- ・「Japanology」の講義を米国マーケット大学および上智大学と結びオンライン教育
- ・オンライン県大ツアーを配信
- ・ホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成講座週末第5クールと第16クールの開講
- ・「新一万円札肖像の渋沢栄一の足跡をたどる しぞか町歩きMAP」が完成
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 - 8言語の健康チェック表を作成
- ・留学生交流会&クリスマス会を開催
- ・「するが文化の散歩道」スタンプラリー 学生がスタンプを制作

p14 キャリア支援センターだより

p15 研究室訪問
・看護学部 林みよ子教授

p17 活躍する卒業生 薬学部
活躍する在学生 食品栄養科学部

p18 産学民官連携

p19 はばたき寄金からのお知らせ

p20 図書館だより
・コロナ禍の中の図書館/私の一冊の本

p21 奨学金授与式

p22 Information
・教員・学生の受賞
・教員人事
・学長表彰
・おおぞら基金寄附者ご芳名

特集①

健康長寿社会をめ 健康食ィ

本学は、国内で唯一、薬学と食品栄養科学の両分野に文理融合の研究・共育を進めています。この異分野融合2019年度からは、静岡県と連携して、内閣府地方創生

01

機能性開発プラットフォームの構築

本学の機能性素材探索の体制を充実するとともに、マッチングのための情報基盤を構築

02

データヘルス・リビングラボの構築

- ・地域住民等の参加によるデータヘルス基盤の構築
- ・健康食関連商品・サービスの検証・評価を実施

03

新たな健康食産業を先導する人材の育成

本学学生・社会人聴講生への実践的な講義を提供し、事業化の即戦力となる人材の育成をするべく「健康イノベーション教育プログラム」をスタート



本号では本学が行っている健康食イノベーション推進事業の具体的な取り組みを紹介します。

ざして

ノベーション推進事業

またがる薬食生命科学総合学府の大学院を持ち、国際関係、経営情報、看護を併せた5学部が、
合の基盤をもとに、地域における持続可能な健康長寿社会づくりを推進するため、
推進交付金を活用した「健康食イノベーション推進事業」に取り組んでいます。



機能性開発プラットフォーム

静岡県特産の農水産物及び加工食品等の中からその機能性を、システマティック・レビューを用いて評価するとともに、それらのデータベースを構築するなど、最新の機能性及び素材に関する情報基盤の構築と、新たな機能性素材の探索と検証を進めています。

静岡県立大学

食品企業

フーズ^{※1}センター

静岡県立大学

健診機関

素材探索

情報基盤

相談

企画

ヒト紹介

SR^{※2}

評価

※1 フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンターの略。

※2 システマティック・レビューの略。系統的文献検索法のこと。P18 参照。

データヘルス・リビングラボ

地域の人々から提供された健康や食、生活習慣等に関する情報（ヘルスデータ）を、1つの大きなデータ（ビッグデータ）にまとめ、それらのデータを活用し、リビング・ラボの“場”を用いて、地域、大学、企業、研究機関などが一緒になって、対話や実証を通して、一人一人に対応できる健康支援の在り方を創りだしていく仕組みづくりを進めています。

リビングラボとは？



「リビング＝生活の現場」と「ラボ＝研究室」を合わせて、一人一人の生活シーンを研究の場であるとする考えです。生活の場を舞台に、地域の人々から自主的に提供されたデータの分析を踏まえ、大学・行政・企業などが、地域の人々と対話しながら、新しい製品やサービスを作り出すことをめざします。



静岡市と連携して、健康長寿のまちづくりの拠点である静岡市地域福祉共生センター「みなくる」において、データヘルス・リビングラボの体制を整備するとともに、地域住民の主体的なセルフケアの意識と技術を向上させる取り組みなどを行っています。

取り組み

①

ICT 端末の活用

「健康の見える化」プロジェクトとして、地域住民にウェアラブル端末を貸与し、心拍数、消費カロリー、睡眠の質などを計測し、それらのデータを匿名で収集、解析して事業に活用します。また、ICTの活用によって、地域住民のセルフケアの推進や健康リテラシーの向上をめざします。

取り組み

②

「健康な食事」 としてのお弁当

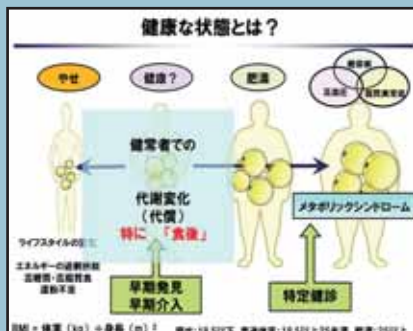
地域の食品産業の振興とそこに暮らす人々の健康増進のために、地元企業と連携し、静岡県産の食材を利用して、「健康な食事」の基準に合ったお弁当メニューを考案し、ビジネスモデルの構築をめざします。

健康イノベーション教育プログラム

本プログラムは、本学学生と食・ヘルスケア産業の様々な分野で活躍している社会人が、文理融合による最新知識を通して、データサイエンスの実践スキルを身につけ、将来に対する地域ビジョンを持ち、新しい製品やサービスを創出するプロジェクトのリーダーや中核メンバーとなるための実践的な学びの場を提供します。

2020年度の後期(2020年9月末～2021年2月)開講で、「健康と食」「ITとデータの科学」「地域産業とマーケティング」「ビジネスモデル」「地域企業とSDGs」「ワークショップ-グループ実践演習」の6つの科目で構成されています。科目ごとに4～5人の本学教員(一部外部講師を含む)が、オンラインやオンデマンド配信により講義を行っています。その中から3つの講義をご紹介します。

健康な状態とは？

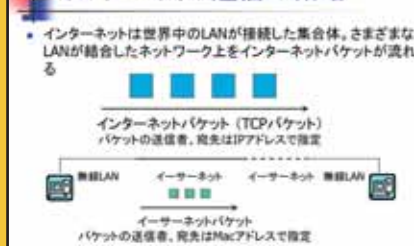


「健康と食」

新井英一 食品栄養科学部教授 「生命を律する健康食を考える」

健康とはどのような状態を指すのか、また摂取した食事がどのように人々の体に影響するのかを、具体的なデータなども交えながら説明しました。現代人が抱える健康の課題から、実際に不足しがちな微量栄養素の説明まで幅広く講義を行いました。人体に必要な栄養素の一時的な過不足では生体調整に大きな影響を及ぼすことは稀ですが、中長期的には不具合が生じる可能性があります。講義では、日々の食生活を意識することの重要性と、そのためのデータサイエンスの意義、必要性について説明しました。

インターネット通信の概略



「ITとデータの科学」

武藤伸明 経営情報学部教授 「インターネットを中心に見たIT技術」

全体的な流れとして、インターネットの歴史を振り返りながら、各時代に登場した各システムについての概要的な説明を行い、私たちが今現在使っているインターネット技術がどのように形作られてきたのかを説明しました。TCP/IPやWebなど私たちが普段使っているシステムがインターネットの中でどのような役割を担っているのか、どのような機能を持ち、どう活用されているのか、そういった基礎知識の取得をめざす講義を行いました。また第二回講義では統計分析向けのプログラミング言語であるR言語の基礎を演習形式で学ぶ講義を行い、実践的な能力の取得をめざしています。

「地域産業とマーケティング」

大久保あかね 経営情報学部教授 「ガストロノミー・ツーリズムの世界的潮流」

その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズムのことをガストロノミー・ツーリズムと呼び、欧米を中心に世界で注目される観光戦略です。本講義ではサン・セバスチャンや湯布院等実際に美食で名高い町を例にあげ、町の住民や研究・教育機関など町全体で美食への取り組みを行うことで、観光客にとって魅力的な食の町につながるというモデルを紹介しました。さらにガストロノミー・ツーリズムを静岡県でどのように展開できるかのディスカッションを行い、受講者の間では活発な話し合いが行われました。

健康で幸福な地域社会の実現のために

合田敏尚副学長

新型コロナウイルス禍のような社会の急激な変化への対応に加えて、わが国で顕在化しつつある人口減少・超高齢社会の課題を乗り越え、幸福度の高い地域を創るために、地(知)の拠点大学に求められる最も重要な責務は、地域内の人材を効果的に育成し、地域社会のイノベーションを推進する仕組みを創ることだと考えます。本学の地域連携の取り組みの実践においては、地域における皆様のご協力、ご参加が不可欠です。この記事を通じて、本学の取り組みについての理解をより一層深めていただければ幸いです。



コロナ禍における 学生による支援活動

新型コロナウイルスの影響で大学生活は大きく変わりました。
そんな難しい状況の中、自分たちにできることを考え、
立ち上がった学生たちがいます。
それぞれの想いをお届けします。



1 たべものカフェ



静岡県立大学学生ボランティアセンターでは、静岡県立大学・学生緊急支援プロジェクトの委託を受け「たべものカフェ」を毎週行なっています。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、食費を切り詰めたり、学生同士の交流を必要としたりして困っている学生を支援する目的で、スーパーで使える商品券や食料の配布を行うとともに、おしゃべりをしたり、困りごとの相談を受け付けたりしています。学生同士だからこそ話せることがあり、互いに助け合うことの大切さを実感しています。コロナによる影響だけでなく、学生がボランティアを通して様々な場面で助け合える環境をこれからも作っていきたいと思っています。

学生ボランティアセンター代表 佐藤舞祐（国際関係学部2年）

K-commu

2

K-commu 3つのミッション

1. 情報を伝えるべき人に分かりやすく届けること
2. 学生同士、学生と教職員を繋ぐ懸け橋となること
3. 協働して前向きなアクションを起こすこと

サイトとSNSを運営するPR班とイベントの企画／運営するアクション班に分かれ、学生のニーズに応える活動をしています。K-commuを通じて同じ悩みや不安を抱えている仲間が会い交流し、さらに他大学の学生や草薙地域の方とも交流することができました。コロナ禍で前期はオンラインでしかできなかったイベントが、感染症対策をしっかり行いながら対面でのイベントを企画／実施したことで参加者から感謝の言葉を頂き、喜ぶ姿を見て私たちの心も温まりました。現段階では学生同士が繋がる場を作ることが心掛けていますが、今後は学生と教職員が定期的に交流する場も設けることができればいいと思っています。

K-commu 全体コーディネーター 山本怜（国際関係学部2年）



3 Scareer,

私たちの活動内容としては主に2点あり、1つ目は、就活生と就活を終えた先輩が一对一で定期的に面談を行います。面談では、将来を見据えて今までの自分と向き合い、ファーストキャリアを選ぶための就活軸を一緒に作ります。2つ目は、就活生向けイベントの開催や、就活のノウハウを生配信しています。

終身雇用や年功序列の崩壊、リモートワークの推進などによる成果主義の広がり…この結果必要とされる人材は、「会社の指示通りに仕事をこなす人間」ではなく「自らの信念や将来ビジョンを持って自ら行動できる人間」だと私たちは考えています。Scareer, は静岡で、そういった社会に適応している人材を育成していきます。

Scareer, 代表 田中真愛（経営情報学部4年）

静岡新聞に掲載
いただくなど
メディアからも
注目いただい
ています！



4

老年 発展 看護学 実習



動画はコチラから！



発展実習の老年の分野の活動で
Youtube 用の動画制作を行いました。

例年は直接高齢者の方と一緒にクイズや運動を行っていましたが、今年は新型コロナウイルスの影響で行うことができなくなったため、健康文化交流館「来・て・こ」と協働して家でもできるような指を使った脳トレや筋トレを紹介する動画を制作しました。

制作に関わった6人は今まで動画を作ったことがなく、うまく制作が進まか不安でしたが、対象者は高齢者であることを踏まえ、わかりやすいような動画を作ることを意識して制作しました。新型コロナウイルスの影響で、家で過ごす高齢者が増えることが予想されますが、この動画を見て、筋力の低下の防止にも役立ててもらいたいと思います。また、人とのつながりが広がるように、動画内では「来・て・こ」も紹介し、高齢者が活動する場の情報発信も行いました。

寺田花純（看護学部4年）

5

発展看護学実習

私たちは新型コロナウイルスの影響で静岡市のS型デイサービスが中止となっている中、健康を促進する公衆衛生看護の活動として、「健康すごろく」を作成しました。

対象者の方と、直接会うことができない中で、相手の方を想像しながら作ることは難しかったですが、参加者の方々が一緒に楽しんでもらえるよう足踏みや口腔体操といった体験的な要素を取り入れました。現在は静岡市内の5カ所で使っており、ソーシャルディスタンスを保ちながら楽しんでいると感想をいただきました。実際に参加することはできませんでしたが、地域の役に立っていることを実感しました。

ぜひみなさんにも、「自分の住む地域でどんな活動が行われているのかな」と少しでも地域に興味を持ってもらえればうれしいです。

小井出優太（看護学部4年）



6 県大ステージ2020



私たちは、新型コロナにより思うように活動できていないクラブ・サークルに活動の目標となる「ステージ」を用意したいと考え、オンラインイベントを企画しました。このイベントでは各団体の活動を動画にまとめ、その魅力を発信します。私たちスタッフは本イベントの広報活動や動画内容の打ち合わせ、撮影協力を行っています。一緒に撮影を行う中で、「各団体の活動の面白さ」に惹かれ、より多くの方に知ってほしいと感じました。また、このイベントを通して、新入生や県大進学を目指す高校生に魅力あふれるキャンパスライフを知ってほしいと考えています。加えて、コロナ禍においても、負けずに頑張っている学生の姿を発信することで、見ていただいた方に少しでも元気を与えることができたらと考えています。



県大ステージ2020 スタッフ

動画はコチラから！

「THE世界大学ランキング2021」に本学がランクイン

世界的な大学ランキング最大手であるTimes Higher Education (THE)が2020年9月に発表した「THE世界大学ランキング2021」において、本学は昨年に続き、総合ランキングで1001+ にランクインしました。

同ランキングは、主に研究力にウェイトを置いて世界の大学を評価するもので、「教育(30%)」、「研究(30%)」、「被引用論文(30%)」、「国際性(7.5%)」、「産業界からの収入(2.5%)」の5つの分野の指標で評価します。

ランクインした大学の数は、世界93か国の約1,500校です。日本からは本学を含む116校がランクインしました。また、公立大学は本学を含め12校がランクインし、東海4県の大学は本学を含め13校がランクインしました。

女性向け防犯リーフレットの贈呈式を開催



防犯リーフレット贈呈式の様子

2020年7月29日、静岡県と県警察本部が連携して作成した女性が犯罪に遭わないための注意点を記載したリーフレットの

贈呈式が、草薙キャンパスにて行われました。近年、県内の女性に対する声掛けなどの不審者事案件数は高止まりの状況にある中、6月には沼津市内で女子大学生が刺殺される事件が起こるなど、学生生活への不安が高まっています。

リーフレットを贈呈した中西浩県くらし交通安全課長からは「沼津の殺人事件での県民の不安を受けて、従来のリーフレットをより現状にふさわしいように改訂しました。何よりも防犯意識を持つことが重要です。女子学生の皆さんが防犯

について考えるきっかけとしていただければと思います」との話があり、改めて注意喚起を促すように依頼がありました。

リーフレットを受け取った小林公子学生部長は「本学は女子学生が多く、実際に不審者情報が多数報告されています。これから夏休みに向けて意識が緩んでしまうこともあるかと思うので、ぜひ学生の皆さんにはこのリーフレットを有効活用してほしいと思います」と述べました。

2020年度「健康長寿フェロー」および「地域みらいづくりフェロー」を認定

本学は、人材の地域内循環を促すことなどを目的に、学生の共有に貢献していただいた社会人を、健康長寿フェロー、地域みらいづくりフェローとして認定する制度を2019年新設し、2020年7月29日に2回目となる認定証授与式を草薙キャンパスで行いました。

今年度は、健康長寿フェローとして、本学で健康長寿に係る講義や演習等の共有活動に従事された医師や看護師など7名の方を認定し、地域みらいづくりフェローとして、地域に係る講義や演習等の共有活動に従事された学芸員や音楽家など9名の方を認定しました。授与式には、健康長寿フェロー3名と地域みらいづくりフェロー6名の合計9名の方が出席され、鬼頭宏学長が直接認定証を授与しました。

鬼頭学長は、各フェローの方々に感謝

の意を伝えるとともに、「2019年11月に本学ではSDGs宣言を行い、静岡を良くすることを通じ、世界を良くする人材を育てていきたいと考えています。その人材育成の中核となるのが皆さんに関わっていただいている「しずおか学」などの講座です。引き続きご支援をお願いします」と今後の支援について依頼しました。

地域みらいづくりフェローに認定された焼津小泉八雲記念館学芸員の那須野絢子さん(本学国際関係学研究科修士課程修了)からは、「今回の認定はとても光栄なことです。担当した『小泉八雲と焼津』の講義では学生が熱心に受講していて反応も良かったです。将来的には八雲を学びたいから静岡県立大学に入学したという学生が生まれればうれしく思います」との夢も聞くことができました。



健康長寿フェロー認定者の方々と記念写真



地域みらいづくりフェロー認定者の方々と記念写真

■ 本学名誉教授が大学発ベンチャー企業を設立



称号記を持つ小林裕和名誉教授

本学は、2020年8月28日、小林裕和名誉

教授(元大学院食品栄養環境科学研究院植物機能開発研究室 教授)が自身の研究成果を基に設立したベンチャー企業「株式会社グリーン・インサイト」を、大学発ベンチャーに認定しました。

小林名誉教授は、これまで、光合成機能を担う植物葉の葉緑体の構築の分子機構、さらに植物における薬効性・機能性成分、バイオ医薬品の生産に資する研

究を遂行し、2020年3月に本学を定年退職しました。8月17日に、本研究成果を活用し、植物の機能性の増強、バイオ医薬品生産等の商品及びサービスの企画、開発、製造及び販売を行うため、「株式会社グリーン・インサイト」を設立し、大学発ベンチャーの認定に至りました。

静岡県立大学発ベンチャーの認定は、本件で10件目となります。

■ グローバル地域センターが国際シンポジウムを開催

2020年8月26日、グローバル地域センター主催の国際シンポジウム「21世紀アジアのグローバル・ネットワーク構築と静岡県の新たな役割」がオンライン配信により開催されました。

本シンポジウムは、アジアのグローバル・ネットワークと地域間交流を長期の視野で見ながら、コロナ禍のなかで「ポストコロナの国際経済・国際情勢」を展望する目的で開催され、午前の部は「アジアのグローバル・ネットワークと地域間交流」を、午後の部は「ポストコロナの国際経済・国際情勢」をテーマに、本学の教員に加え、外部から多数の講師を招き、様々な視点からの講演・研究発表・パネルディスカッションが行われました。

午前の部の終わりには濱下武志グローバル地域センター長からまとめとして「間世代・跨分野ネットワークの形成：『地域社会をつなげる』『民知を育む』『地域間ネットワークの形成』」についての提言がありました。

午後の部を締めるパネルディスカッションは、国際ジャーナリストの蟹瀬誠一氏をコーディネーターとして、パネリストの公益財団法人笹川平和財団上席研究員の渡部恒雄氏、本学国際関係学部の小針進教授、グローバル地域センターの柯隆特任教授が、参加者からの質問に回答する形で進みました。中国の外交政策や、米中問題、日韓関係などが議論され、最後に「リーダー不在のG0(ゼロ)世

界で日本のなすべきこと」として、強いリーダーシップを発揮する人材育成や戦略の重要性などがあげられました。

オンライン開催という新しいスタイルで開催した国際シンポジウムでしたが、一日を通し充実したシンポジウムとなりました。



シンポジウムの様子

■ 食品栄養科学部環境生命科学科が課外授業（フィールドワーク）を実施



課外授業の様子



食品栄養科学部環境生命科学科は、2020年9月15日に学部2年生と大学院博士前期課程1年生に対して課外授業（フィールドワーク）を実施しました。静岡大学地域フィールド科学教育研究センター森林生態系部門 天竜ランチ（浜松市）にて、同大学農学部の水永博巳教授、栗原洋介特任助教のご指導の下、森林動物に関する実習と食材を中心と

した植物調査を行いました。

午前中は栗原特任助教による森林動物に関する実習を行い、前日に仕掛けたエサ（ピーナッツ）入りの巣箱を回収して、ネズミや昆虫等の捕獲作業を通して、森林の生態調査を行いました。結果として、捕獲はできませんでしたが、栗原特任助教が以前に捕獲したネズミを観察しました。

午後は水永教授による植物調査で、それぞれの木の高さを測量用ポールで測り、植生断面図をスケッチしました。これにより、森林中の木の種類や平均高さの構成と成長状況が分かります。この後、植生木の種類の説明をし、さらに木

の葉のにおいなど様々な観点から観察を行いました。

この課外授業は例年2泊3日で行いですが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、今回は感染拡大防止対策を行った上で、1日で実施しました。



集合写真

2020年度 秋季学位記授与式を開催



式の様子

2020年9月24日、草薙キャンパスで秋季学位記授与式を行いました。学部卒業生4名、大学院修士・博士課程修了生9名、

計13名が学位記を受け(当日欠席者含む)、新たな一步を踏み出しました。

学位記授与に続いて鬼頭宏学長は「皆様の門出をお祝いできることを嬉しく思います。本学での研究を糧に、大いにご活躍いただきたい」と、激励の式辞を述べました。さらに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける社会情勢を踏まえ、「それ

ぞれの分野で学んだことを活かして、これからの社会に貢献いただきたい」と声をかけました。



集合写真

2020年度 秋季大学院入学式を開催



式の様子

後期授業が始まる2020年10月1日、秋季大学院入学式を開催しました。入学式には、入学生6名のうち3名が出席しまし

た。入学許可を宣言した後、鬼頭宏学長は「社会的な問題は多くの要因が複雑に関係しあって起きています。そうしたことへの答えを、本学に集ったもの同士でそれぞれの立場から議論し、協力し合うことで探し出していきたいと思います。皆様の研究が社会の発展に役立つことを期待します」と祝辞を送りました。

式後、学生のひとり「博士号を取得することが夢でした。投げ出さず、最後までやり遂げたいと思います」と抱負を述べました。



集合写真

清水銀行との連携による経営情報学部の人気講義を紹介する書籍を出版



『人<財>こそが、地域の礎』

日に本講座を紹介すべく『人<財>こそが、地域の礎』が、清水銀行と本学編により静岡新聞社から出版されました。

清水銀行と経営情報学部の連携講座「地域金融論」は、これまで15年間続く人気講座です。

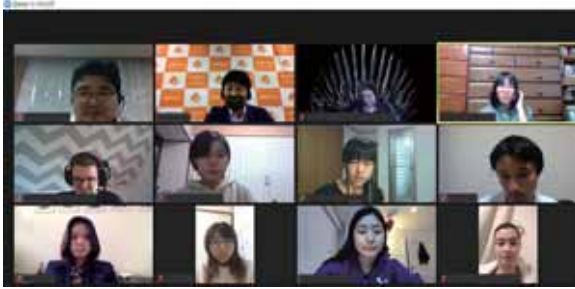
2020年10月6

本書では、同銀行の豊島勝一郎会長と本学の鬼頭宏学長との対談、講義の採録(豊島会長の講演を含む)、そして本講義が開講された経緯や人気講座の舞台裏についても紹介されています。



本をもつ鬼頭学長(右から2番目)

交換留学フェア2020を開催



オンライン開催となったフェアの様子

本学では海外の15の大学等と交換留学・語学研修の提携を行っており、その数も年々増加しています。そこで交換留学や語学研修に興味をもつ学生に向けて、情報を共有し、実際に留学に行った経験者の話を聞くことにより、留学を具体的にイメージしてもらうために毎年、

交換留学フェアを開催しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で海外渡航が制限されているなかで、留学再開に向け、2020年10月9日に本フェアを初めてオンラインで開催しました。

第一部では交換留学・語学研修の概要説明会が行われ、国際関係学部の小窪千早准教授は「今回は初のオンライン開催となりましたが、遠隔だからこそ、現地の大学の人にも参加してもらい、生の声を届けることができます。コロナで国際交流がままならない現状ですが、留学経験者や先生方から生の

情報を得るなど、良い機会にしてほしいです」と参加者へ呼びかけました。

第二部では留学経験者による協定校紹介・個別相談が各校に分かれて行われました。各協定校ごとに、経験者が留学体験を語り、協定校の参加者からの現地の最新情報について提供を受けるなどした後、質疑応答が行われました。留学経験者からはその国での生活や協定校での勉強、週末の過ごし方など生の声が届けられました。参加者からは「どの程度語学力が必要か」「留学先の食事はどうか」など、協定校での授業から現地の生活まで幅広い質問が聞かれ、留学への興味が尽きない様子でした。

ツーリズム研究センターが開所記念講演会を開催

2020年10月10日、大学院経営情報イノベーション研究科附属ツーリズム研究センターが、開所を記念した講演会をオンラインにより開催しました。

冒頭の主催者挨拶では八木健祥センター長が、コロナ禍のもとでの開所となった本センターについて、「荒波の中に舟を漕ぎだした形となったが、ウィズコロナの時代の新しい観光を模索し、産学官とも連携を図りながら、静岡県観光の振興に貢献していきたい」と語りました。

講演会の講師には株式会社マーケ

ティングボイス代表取締役の鶴本浩司氏をお迎えし、「観光デジタルマーケティング基礎から実践まで」と題し、コロナ禍で起きていること、今後起きることを踏まえたうえで、観光デジタルマーケティングをどう活用していけばいいのかについてお話いただきました。旅行会社への就職を希望する学生からは「今後、観光業界は盛り返すことが可能か」といった質問も出され、「課題解決をしてくれる存在として旅行会社の役割も変わるのではないか」と回答いただくなど、質疑応答も活発に行われました。



講演する鶴本氏

第10回シーズ&ニーズビジネスマッチング研究発表会での研究発表

2020年10月30日、大学・公設試験研究機関の技術シーズを企業等が活用や共同研究をするきっかけとしていただくことを目的とした「第10回 シーズ&ニーズビジネスマッチング研究発表会」がオンラインにより開催されました。

本発表会では「食品・生物産業の付加

価値創造と生産性向上」というテーマに沿って、経営情報学部の岩崎邦彦教授による基調講演の後、薬学部の南彰講師、食品栄養科学部の伊藤圭祐准教授、本同宏成准教授の3名と静岡大学・東海大学の教員6名が研究シーズの発表を行いました。各研究の強みや今後の技術活用案

について発表するだけではなく、参加者との質疑応答の時間も設けられました。

大学の研究シーズについて知っていただき、共同研究について企業等に検討していただく良い機会となりました。

「Japanology」の講義を米国マルケット大学および上智大学と結びオンライン教育

本学では、2018年度から、上智大学およびお茶の水女子大学と共同で、オンライン教育（Collaborative Online International Learning：COIL）を利用した遠隔教育および交流事業を軸とした、日米2国間の大学間連携を図るプロジェクトに取り組んでいます。

このCOILプロジェクトの一環として、2020年6月11日に全学共通科目「Japanology: Science and Society」のなかで、COILの米国連携大学であるマル

ケット大学(ウィスコンシン州)のAlexandre A. Martins教授(アレックス教授)に、講師として現地からオンラインでご参加いただき、国内連携大学の上智大学とあわせた3地点を接続して、上智大学と本学の学生が自宅などから同時受講しました。

講義では、“Ethics and Global Health”と題し、副題“Thinking of Health Inequalities and Justice”のもと、国境を越えた保健医療問題が発生す

るなかで、健康格差が生じている実態をデータや事例を交えて紹介し、不正、不平等、差別、偏見、そしてさまざまな格差から生じるグローバル・ヘルスの問題を取り上げました。

受講生とアレックス教授との間では、特定国の習慣が他国にもたらす誤解と非難の深刻さ、HIV感染など目に見えない脅威から生じる偏見についてなど、活発な質疑応答と論点整理がありました。

■ オンライン県大ツアーを配信

例年、本学では8月21日の「県民の日」に合わせて、一般の方向けに研究室や図書館などの施設見学、体験学習など、大学の醍醐味を味わえるイベント「夏休み県大ツアー」を行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面でのイベント開催は中止しましたが、2020年8月3日に本学公式サイトに「オンライン県大ツアー」のページを設け、本学の魅力を紹介する動画を公開しました。

動画は夏休みの自由研究に役立つように実験や豆知識など、学部ごとに制作したものと、キャンパス案内の計6本です。各学部動画のタイトルは次の通りです。



- ・【薬学部】生薬を使ったお料理実験！
- ・【食品栄養科学部】
食品から目に見えない油をとりだしてみよう！
- ・【国際関係学部】小学校の今と昔
- ・【経営情報学部】県大豆知識クイズ
- ・【看護学部】こころを表現、こころを癒す体験学習

オンライン県大ツアーは本学
公式YouTubeチャンネルに
て現在も公開中です。

県大ツアー
2020
ページへ



交換留学生のホストファミリーを募集しています！

本学では、ロシア・フィリピン・タイなど海外の協定校から留学生を受け入れ、ホームステイを行っています。国際交流に関心のある方、ホストファミリーとして留学生を受け入れて異文化交流をしてみませんか？

交換留学生の来日が決まり次第、受け入れ期間等の詳細条件をあらためてご相談させていただきます。国際交流に関心のある方は、まずはホストファミリー登録をお願いします。

主な募集条件

- ・静岡市及び周辺の市町にお住まいのご家庭
 - ・居室と朝夕食を提供できるご家庭
 - ・ホームステイ期間は2週間、3ヶ月、半年など協定校により異なります。期間内の1部も可能です。
 - ・1ヶ月の受入れで3万円程度の謝礼をお支払いします。
- ※大学から寝具や自転車などの貸し出しも行っています。



ロシアからの交換留学生とホストファミリー

お問い合わせ先

国際交流センター 電話:054-264-5158
E-mail:kokusai@u-shizuoka-ken.ac.jp
<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/campuslife/exchange/homestay/host-family/>

■ ホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成講座週末第5クールと第16クールの開講

短期大学部では、2007年度より文部科学省の委託を受け、社会人を対象としたホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成講座をスタートしました。今までに213名の修了生を送り出しています。今年もHPS養成講座の週末第5クールを2020年7月18日に、第16クールを10月30日に開講しました。全国からの応募があり、WEB面接を経て、HPSを目指す熱い志を持つ16名が、日々勉学に励んでいます。コロナ禍の中、感染対策として、遠隔、オンデマンド、課題授業が増える中、従来の対面授業と変わらない数の遊びが生み出され遠隔授業の可能性を感じたという講師の感想も寄せられています。制限の多き環境の中ですが、修了ま

で在宅や病院での実習も経験します。2021年2月には、国際シンポジウムをオンデマンドで開催します。小児医療や福祉の専門家による講演の他、本場英国HPSの講演や多くの先輩HPSの口頭発表等も楽しみにしています。

HPSとは？

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(略称、HPS)は、遊び(ホスピタル・プレイ)を用いて小児医療チームの一員として働く、英国生まれの専門職です。医療環境をチャイルドフレンドリーなものにし、病児や障がい児が医療とのかかわりを肯定的に捉えられるよう支援します。



Zoom講義の様子

■ 完成！「新一万円札肖像の渋沢栄一の足跡をたどる しぞーか町歩きMAP」

本学は、「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)により、地域貢献に取り組んでいます。

このたび、本事業地域づくりワーキンググループでは、講義での実習課題の成果を活用して、渋沢栄一の足跡をたどる静岡町歩きマップを作成しました。

渋沢は「日本近代資本主義の父」といわれ、数多くの企業設立に関わったのみならず、慈善事業や民間外交に尽力しました。渋沢は明治初め静岡藩での「商法会所」設立により実業家として第一歩を

踏み出しました。そのゆかりの場所について、学生が調査しながら地図にまとめました。

一人でも多くの方々に、渋沢の足跡について親しみを持っていただければ幸いです。なお、本マップは、静岡県立大学令和2(2020)年度静岡県立大学「地(知)の拠点事業」研究費にて作成されました。



「新一万円札肖像の渋沢栄一の足跡をたどる しぞーか町歩きMAP」

本マップは本学ホームページよりダウンロードが可能です。
<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news/20201218-1/>



令和2年度 学位記授与式
 (卒業式・修了式)
開催日 令和3年3月19日(金)

令和3年度 入学式
開催日 令和3年4月8日(木)

学位記授与式・入学式を次の日程で開催いたします。

開 場 午前9時10分

着 席 午前9時40分

開 式 午前10時

会 場 グランシップ大ホール 海

静岡市駿河区東静岡2丁目3-1(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩5分)

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、保護者の皆様のご来場はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

※予定の変更が生じる可能性があります。

最新情報を本学ホームページでご確認ください。

問い合わせ先 **TEL054-264-5009(学生室)**

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 - 8言語の健康チェック表を作成

2020年11月に本学教員と静岡県在住の大学教員、医療従事者、医療通訳経験者らが協力し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として多言語の健康チェック表を作成しました。

言語は、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、英語の8つで、日本語と各言語が併記されています。言語ごとに、「病院・診療所受診用」「保育園・幼稚園・こども園登園用」「毎日の健康チェック用」の表が完成しました。

作成に関わったのは、看護学、歯科衛生学、保育学、外国語、社会学等を専門とする県内大学所属の教員、県内の病院や診療所で働く医師、看護師、医療ソーシャルワーカーなどの医療従事者、そして、県内で医療通訳者として活躍する翻訳・通訳者です。県国際交流協会、県教育委員会のご協力もいただき、静岡で暮らす外国人と日本人が力を合わせて作成しました。ボランティア団体「外国人のための無料健康相談と検診会」の皆さまの応援もありました。

作成に関わった本学看護学部の前野真由美講師は、「本チェック表が、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一つになれば」と切望しています。

本チェック表は、公式ホームページよりダウンロードが可能です。なお、本チェック表は、静岡県立大学 令和2(2020)年度 地(知)の拠点(COC)事業地域を志向した研究「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」の研究費を活用して作成しました。

病院・診療所受診用	本チェック表とペンを渡すと、受診者がすぐに書くことができます。 密になる時間を少なくすることができます。 医療従事者と受診者が見やすいものとなっています。
保育園・幼稚園・こども園登園用	保育園・幼稚園・こども園側と、 こども・親の双方が見やすいものとなりました。
毎日の健康チェック用	外国人が自分の健康を管理するためのチェック表を作りました。 外国人のこどもの健康管理にも使えるようにしました。



「8種類の健康チェック表」

留学生交流会&クリスマス会を開催

2020年12月19日、学生室と本学の公認クラブである国際学友会:International Friendship Club(以下IFC)が留学生交流会&クリスマス会を行いました。

今年度は、新型コロナ感染症拡大により、感染症対策を行い、時間も短縮するな

ど、これまでとは全く違う内容でしたが、参加した留学生からは「久しぶりに他の留学生や日本人の学生と顔を合わせることができて本当に楽しかった」との声が寄せられ、笑顔溢れるイベントになりました。

また、今回初めて学生室とIFCとの合同

開催となりましたが、日本人学生の参加者が増え、留学生にとっては日本人学生と交流する良い機会となったようです。これからも学生の意見を取り入れながら、新しい留学生交流会の形を作っていきます。



留学生交流会&クリスマス会の様子



集合写真

「するが文化の散歩道」スタンプラリー 学生がスタンプを制作



スタンプラリーの用紙と各館をイメージしたスタンプ

静岡市の中勘助文学記念館、芹沢銈介美術館、藤枝市郷土博物館・文学館、焼津小泉八雲記念館の4館と、国際関係学部細川光洋ゼミとの共同プロジェクト「しずぶんツアー」は、2018、2019年度のバスツアーにつづく第3弾として、「するが文化の散歩道」スタンプラリーを開催しています(期間:2020年12月9日～2021年3月14日)。

「しずぶんツアー」は、するがゆかりの文化人たちが(中勘助・芹沢銈介・小川国夫・小泉八雲)の文学館・記念館をめぐり、彼らの作品やそれらを生んだ風土を体感して、静岡の魅力を再発見する企画です。

このスタンプラリー開催に合わせて、細川ゼミの学生と有志学生4人で、4館それぞれの特徴を活かした扇型のオリジナルスタンプを作成。各館のスタンプコーナーに設置されています。スタンプを2つ集めると「しずぶん2020」缶バッジ、4館(4色)達成で特製の「するが文化の散歩道」トートバッグがもらえます。スタンプ、缶バッジ、トートバッグはいずれも学生たちによるデザイン。4館をめぐ

る楽しみが増すように、今回はスタンプラリーの用紙に各館の「見どころ」と「クイズ」も載せています。

作成チーフの加藤花蓮さん(細川ゼミ3年)は、「中勘助文学記念館の文字には『銀の匙』が隠されているなど、遊び心のあるスタンプになっています。皆さんに密にならないように参加していただき、スタンプのデザインを楽しんでいただければと思います」と話しました。



制作に関わった加藤さん(写真右)と出口さん(写真左)

キャリア支援センターだより

2020年度(2021年3月卒)の就職活動は、新型コロナウイルスの影響によって一変しました。移動や密を避けるために、3月の就活スタート時から合同企業説明会が中止され、企業説明会や選考が延期となり、4月には就活が一時停滞するような異例の事態になりました。このような状況下で取り入れられたのが「Web」を使った新しい手法での説明会・面接です。地方学生には移動の時間、費用がかからない分、メリットも大きかったようです。今後も多くの企業が採用活動にWebを取り入れていくというアンケート結果も出ています。

しかし、学生からは会社の雰囲気

伝わりにくく判断に困るというような声も上がっています。

今後は学生側にとっても企業側にとってもお互いを知る機会として、インターンシップが以前に増して重要になってくるでしょう。

早めにインターンシップに参加することで、企業・職種理解が進み、働いてからのミスマッチが少なくなることが期待できます。

大学1、2年生のうちからインターンシップに参加してみようというでしょう。ミスマッチを防ぐには、勉強やクラブ・サークル活動、アルバイトやボランティアなど学生生活を通して、自分が「何に興味があるのか」「どうなりたいのか」を見出すことも大切です。コロナ禍で思うようにい

かないこともあるでしょう。今できることを考え、自らの道を切り開いてほしいと思います。

とはいえ、人とのかかわりが少なくなっている中、就活も孤独になりがちです。そのような時は、一人で抱え込まず、私たちキャリア支援センターを頼ってください。

連絡先

草薙キャンパス
キャリア支援センター
電話:054-264-5011
(8:30～17:00)





看護学部 林ゼミ 林 みよ子 教授
(看護学部 鈴木郁美 助教)

——先生が取り組まれている研究について教えてください。また、現在の研究を行おうと思われたきっかけは何ですか。

私は今、脳血管疾患患者の早期在宅移行に向けた看護支援について研究しています。

看護師となって15年目に大学院に進学し研究テーマを考えた時、臨床看護師としてNCU（脳外科集中治療室）で勤務していた時からずっと気になっていた脳死患者の家族への看護を動機に検討を始め、修士論文は、重症くも膜下出血患者の家族を対象とした研究を行いました。その後も発症間もない時期の脳血管疾患患者・家族を対象に研究を続けるうち、比較的症状が軽い患者は、発症数日後に医師から在宅介護をするか否かの判断を迫られ、家族が非常に困惑していることがわかりました。文献を調べると、医学的には軽症とは言え、後遺症のある患者と家族にはあまり注目されておらず、また発症後間もない時期の在宅介護に向けた看護もほとんど研究されていませんでした。そこで、自宅に帰ろうとする脳血管疾患患者・家族への入院早期からの看護を、博士論文で研究し、以降、このテーマで研究を続けています。

——先生の研究が、これからの社会に果たす役割についてお聞かせください。

日本は、世界でも類をみない高齢社会となり、それに対応できる医療体制づくりが進められる中、後遺症がある脳血管疾患患者は今までのように長期的に病院でリハビリテーションを継続することができなくなっています。医療施設では、多くの専門職者が連携して発症後間もない時期から脳血管疾患患者の退院調整を始めています。しかし、物理的準備が着々と進められる中、家に帰って後遺症のある人を世話することになることを受け入れられずに困惑する家族やどのように世話すれば良いのか戸惑う家族が多いことが研究で明らかになっています。私の研究は、退院に向けた物理的準備ではなく、後遺症を負った方とその家族が、病気になる前のように一緒に楽しく人生を歩み続けるための看護を見出しています。脳血管疾患の救命率が上がり、後遺症とともに生きることを余儀なくされる方が増えることが予想される中、安心して自宅での生活続けることに役立つと考えています。

——研究をしているなかで、学生の成長を感じるのはどのような時ですか。

研究では、関係する研究論文をいくつも読み、今までに何が明らかになっているのか、まだ明らかになっていないこと、研究すべき課題は何かを考えることが大切だと思っています。最初、学生は研究論文をどう読んで良いのかわからず戸惑いますが、次第に、研究論文を批判的に読んで自分の考えを発展させたり、研究論文の内容を実習で体験した看護実践と結びつけて臨床的な視点で考えたりするのを見たとき、成長を感じ、とても頼もしく思います。



今年度の学内演習の様子

STUDENT VOICE

看護学部4年
山本 亜由美さん



一ご自身から見て感じる、林先生の研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴についてお聞かせください。

脳血管疾患患者・家族に対する研究について急性期～在宅移行期まで幅広く、自分の研究したいテーマに沿って、深く研究することができます。また、研究に行き詰

まって辛いと思うこともありましたが、手厚いサポートや研究に対して一緒に乗り越えようという姿勢で学生に寄り添って指導をしていただけてとても心強かったし励みになりました。学ぶことが大変多く、実際に医療現場に出てからも役に立ちそうな知識をたくさんいただきました。

一ご自身が行われている研究テーマについてお聞かせください。

機能障害の残存を告知された急性期脳卒中患者の家族の思いと援助に関する文献研究で、生命の危機は脱したものの機能障害が残る急性期脳卒中患者の家族の思いとこの時期の家族に対する看護を明らかにしました。家族ごとに異なる複雑で経時的に変化する思いに対して、必要な援助を必要

時期に適切に提供することが重要であり、看護師は、常に家族に寄り添い、援助を継続していくことが必要であることを示唆しました。

一将来の目標・希望進路についてお聞かせください。

まずは、一人前の看護師になること、脳神経系の病棟に勤めること、そして将来的には、脳卒中リハビリテーション看護か摂食・嚥下障害看護の認定看護師になりたいと考えています。また、前述の研究のように、患者だけでなく、家族にも寄り添って家族の思いやニーズに対して柔軟な対応、支援をしていけるような看護師になりたいです。

看護学部4年
石野 莉子さん



一ご自身から見て感じる、林先生の研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴についてお聞かせください。

私の研究テーマは対象となる文献数が少なく、不安が強かったのですが、私の興味のある視点を守りつつ、研究していく糸口をみつけてくださいました。その後も、文献を読むだけでは不足している、実践経験を通しての見解やご指摘を頂き、自分が本当に追及したかった内容を明らかにすることができました。林先生のご指導は常に

確で、時間の余裕のある今しかできない、研究テーマに対する深い理解や考察をしていく機会となりました。

一ご自身が行われている研究テーマについてお聞かせください。

実習で片麻痺を伴う療養者と関わり、障害を抱えて自宅で生活することの難しさを実感したことから、片麻痺を伴う脳血管疾患患者が主体的に在宅生活を継続するための入院中の看護援助について文献検討をしました。入院中に主体性を回復し退院後も困難に負けず活動をしていく姿勢や覚悟を持てるように支え、退院後の生活においても患者の力が発揮できるよう人的・物理的環境や活動方法の準備を行う必要があることを明らかにしました。

一将来の目標・希望進路についてお聞かせください。

慢性的な疾患を抱えた患者と関わる機会の多い内科病棟で、退院後の生活を見据えた支援ができる看護師になるのが目標です。医療者の手の届きやすい入院期間で、病気だけでなく生活習慣や家庭状況といった多方面の視点から、患者とその家族の気持ちに寄り添った援助を実施することで、長期にわたる患者の療養生活を支えていけるような存在となっていきたいです。

看護学部4年
杉山 佳歩さん



一ご自身から見て感じる、林先生の研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴についてお聞かせください。

林先生の丁寧なご指導がこの研究室の魅力だと思います。研究を進める中で、分析や言葉の表現の仕方など様々なことにつまづきました。しかし、対面でゼミができない中、私の意図を汲み取りながら、自分で考えて進んでいけるように導いてくださったため、卒業論文が完成したときの達成感は大きかったです。研究方法をしっかりと学ぶことができました！

一ご自身が行われている研究テーマについてお聞かせください。

在宅移行期における高次脳機能障害患者

家族への看護支援に関する文献研究を行いました。研究の結果、「見えない障害」と言われる障害を負った患者の現状への理解を促し、介護指導や対応方法について知識や技術の獲得を支援するという段階的な支援と共に、今後の方向性についての患者と家族の思いをすり合わせ、家族なりの患者を受け入れた生活の再構築を共に考える支援が必要であることが明らかになりました。

一将来の目標・希望進路についてお聞かせください。

私は現在、脳卒中看護、訪問看護、終末期看護など様々なことに興味があります。どの道に進むかはまだわかりませんが、自分のやりたい看護を行うために、まずは看護師として必要な知識や技術を身に付けることが目標です。また看護師として働くときには、今回の研究で学んだことを活かし、患者はもちろん、退院後に患者を支えていく家族への支援も大切にしていきたいです。



はやし こ
林 みよ子 教授

国立循環器病センター（現：国立循環器病研究センター）にて看護師として勤務したのち、日本赤十字看護大学大学院修士課程修了、北里大学大学院看護学研究科で博士（看護学）を取得。滋賀医科大学、北里大学、天理医療大学にて教職に従事した後、2020年より看護学部教授として本学に奉職。専門は、クリティカルケア看護、脳卒中看護、家族看護。研究テーマは、脳血管疾患の患者・家族の在宅移行に向けた看護支援である。主な業績として「クリティカルケア看護完全ガイド（医歯薬出版）」「臨床外科看護各論（医学書院）」などがある。

林ゼミ 学生3名

活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 石川 格靖さん
卒業学部 薬食生命科学総合学府 薬食生命科学専攻
(2015年 3月修了)
勤務先 ロート製薬株式会社

Q1.現在の仕事について、どのような内容かお聞かせください。また、仕事でやりがいを感じるときはどのような時か、お聞かせください。

肝硬変や新型コロナ重症肺炎などの治療困難な疾患に新たな治療法を提供するべく、私は再生医療の技術を研究開発しています。再生医療の分野ではこれまでになかったアプローチ方法で疾患に挑むため、想定外の課題が多いです。これらをひとつひとつ乗り越えて、より良い技術となって患者さんに提供できるかたちにしていくこ

とがやりがいです。私の研究が、一人でも多くの人の希望になればと思っています。

Q2.大学生活(研究やサークル)で印象に残っていること、今の仕事に影響を与えたことを教えてください。

研究室と剣道部です。研究室では研究のいろはを叩き込まれました。就職後も研究の基礎は教えられますが、会社では大学ほど丁寧に教育してもらえません。研究者を育て上げることは容易ではないということだと思います。私を研究者として育ててくれた大学での経験には感謝しています。また、大学時代の剣道のつながりや剣道で鍛えた心身は今の仕事やプライベートでも活かしています。仕事とプライベートの両方が充実することで、人生が豊かになっていると実感します。

Q3.静岡県立大学に入学してよかったことを教えてください。

Q2と同じです。在学中に良質な教育を受けることができますし、自主的に学ぼうとする意志のあるものにはそのチャンスがあります。ここで学ぶことで、他のどんな大学を卒業した人とも充分戦える基礎を得ることができます。

Q4.今後の目標や課題について教えてください。

私にはやりたいことが2つあります。1つは今の会社で難治性の疾患で苦しむ患者さんを一人でも救うことです。もうひとつは独立した場所で、大きな企業ではできないアプローチ方法で、同じように難しい病気で困っている人の手助けをすることです。ロートは非常に恵まれた環境でこういった副業を支援してくれています。自分の「やるべきこととやりたいこと」に従って邁進していきたいと思っています。

Q5.在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

VUCAと呼ばれる環境変化著しい状況に我々は置かれています。会社や学校などフレーム自体が希薄化しています。AIやロボットにより人が活躍できるフィールドは付加価値が極端に高いものと低いものとで二極化するとされています。これからの時代は個人が「何ができるか」「どれだけ変化に柔軟か」ということが求められます。偉そうな言い方かもしれませんが、それだけ厳しい環境に入ってきていると感じています。よく学び行動することが大切だと思います。

活躍する在学生

The current student who plays an active part



お名前 川端 功輝さん
在籍学部 食品栄養科学部・環境生命学科3年
(2018年入学)

Q1.現在、ご活躍されている分野についてどのような内容かお聞かせください。また、その分野で一番魅力を感じる部分はどこですか。

陸上競技の短距離をしています。今季は日本インカレ100mで準決勝まで進みました。たった数秒のレースの裏には練習法、当日の走りの感覚、気温、メンタルなどほぼ無限といつていいほどの要素が絡み合い、結果となります。一見して努力と結びつかないこともあるように思えますが、実際には必ず理由があり、その理由を追求し一つ一つ改善していく研究的な側面と、積み上げたものを数秒に集約し表現しなければならぬ緊張感が魅力です。

Q2.静岡県立大学に入学しようと思ったきっかけを教えてください。

あまり覚えていませんが、おそらく高校時代から私はより多くの人のためになる仕事がしたいという考えがあり、この先の時代には環境問題に取り組める人材が必要だと思いこの学科を選びました。結果として私は環境関係の技術者の進路を選ばないかもしれませんが、現在環境問題は経営をはじめ様々な分野と結びつくものとなり、どんな分野にも環境を踏まえて考える力をつけることができるこの学科を選んで満足しています。

Q3.大学生活(研究等)と部活(陸上競技部)はどのように両立されていますか。

私の練習は基本週4日程度で、一回の練習時間も1.5~2時間と短いので学業との兼ね合いは問題ありませんでした。その分少ない練習量で競技力を向上させるために、日常的に次の練習でやりたいことや試したいことを考え競技場ではその考えたことのみをやる、というようにとにかく無駄なことを省き、練習の質を上げることを大事にしていました。

Q4.陸上競技をやっていて苦労したこと、そこから学んだことなどあれば教えてください。

苦労したことは、競い合ったり、私の走り意見してくれる選手がいなかったことです。そこで、速い人を中心に知り合いを増や

し、一緒に練習したり話を聞いたりして知識や技術を学びました。このことからたくさんの人と繋がるという事はそれだけ自分を育ててくれる人が増える、という事を学びました。特に愛知教育大学の陸上部には練習と一緒に参加させていただき、私の個人的なフォームや、ウエイトトレーニングの基礎、練習の組み方、チーム作りなど様々なことを教えていただきました。その教を県大でのチーム作りに生かすなど、私の成長の上で欠かせない存在であり、感謝しています。

Q5.今後の目標や課題、将来の夢について教えてください。

来季で競技を最後にするので、それまでに達成したいことが3つあります。1つ目は、大学生のオリンピックといわれるユニバーシアードに出場することです。2つ目は、これまで陸上でお世話になったたくさんの方たちに対して競技を通して様々な形で恩を返していくことです。具体的には結果であったり、私の培ってきた知識や技術を共有したりしたいと考えています。最後の3つ目は、陸上を楽しむことです。私の最後のシーズンにぜひともご期待ください！





産学民官連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

MaOIプロジェクトの推進に向けて静岡県と協定を締結

2020年11月26日、MaOI-PARC(マオイパーク:清水マリンビル内)にて、マリンオープンイノベーションプロジェクト(MaOIプロジェクト)の推進に向けた協定を静岡県と本学で締結しました。

本学からは鬼頭宏学長が出席し、協定書に署名するとともに、今後の研究・産業・教育への期待を述べました。また、MaOIプロジェクトのこれまでの成果や今後の取り組みについて発表する'MaOIセミナー'も開催され、食品栄養科学部の原清敬准教授がパネリストとして参加しました。

MaOIプロジェクトとは、海洋産業の振興と海洋環境の保全を両立する「BlueEconomy(持続可能な海洋経済)」の世界的な拠点形成を目指す静岡県のプロジェクトです。

今後もMaOIプロジェクトの推進に向けて、相互に協力・連携をし、地域社会の発展と人材育成に寄与していくことを目指していきます。



川勝平太静岡県知事と協定書を披露する鬼頭宏学長(右)

プロジェクトが目指す産業応用と研究開発

水産

養殖事業の生産現場にバイオ技術やデジタル技術を導入して、魅力ある商品づくり、省力化、コストダウン等を実現。



食品

海洋由来の機能性成分などを活用した機能性食品・加工食品などの製品化。高付加価値製品の開発。



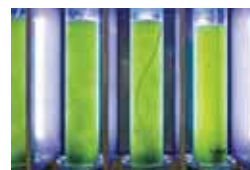
創薬

海洋生物等に由来する新規機能性物質を活用し、健康・長寿に資する医薬品、化粧品等の市場への参入を目指す。



その他

微細藻類の特性を生かし、食品残渣の解消、新たなエネルギー資源の開発やフードロスの解消、センサーデバイスを活用した資源管理技術の開発を行う。



システムティック・レビューを利用した機能性表示食品、続々と！

本学の食品環境研究センターで実施している「システムティック・レビュー」を活用した食品が、続々と機能性表示食品として届出、販売されています。

システムティック・レビューとは、届出する製品の機能性関与成分に、目的とする健康維持効果があるかを総合的に評価する方法です。

今年度だけでも、GABAとβ-クリプトキサンチンを含む「三ヶ日みかん」や、GABAとリコピンを含む「Hapitoma(ハピトマ)」など、多くの食品がシステムティック・レビューを活用しています。



商品名「三ヶ日みかん(GABA・β-クリプト)」
三ヶ日町農業協同組合

～地域をつくる 未来をつくる～ 産学官連携を活用しませんか

《産業界から見た産学連携のメリット》

- ・科学的根拠に基づく商品開発
- ・自社の強みの客観的発見
- ・大学が評価することによる製品の信頼性の向上

学部、研究科等の枠を超えた体制のもと、地域・産学連携推進室が相談・研究テーマに適した大学研究者を紹介します。

「新製品を作ったが課題がある」「大学と共同で新製品を作りたい」など
～まずはお気軽にご相談ください～

静岡県公立大学法人

静岡県立大学《地域・産学連携推進室》

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田 52 番 1 号

E-mail: renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

TEL: 054-264-5124

はばたき寄金からのお知らせ

「第17回学生スピーチコンテスト」、「第24回文芸コンクール」の開催

はばたき寄金主催の「第17回スピーチコンテスト」が2020年11月24日に開催され、
「新型コロナウイルス感染症の流行で考えたこと」をテーマに4人の学生がスピーチを行いました。
また「第24回文芸コンクール」を行い、詩12編、俳句95句、イラスト5点、写真18点、エッセイ・小説12編の応募があり、
各部門の受賞は次のとおりとなりました。



各部門受賞者



第17回学生スピーチコンテストの様子

第17回スピーチコンテスト受賞結果

部 門	受 賞	氏 名	所 属	タイトル
スピーチコンテスト	最優秀賞	渡部瑠名	薬食生命科学総合学府	オレたちオンライン採用組
	優秀賞	菰田昌生	経営情報学部	情けない日本人
	優秀賞	清水ひより	看護学部	自分を受け入れる力
	優秀賞	鈴木杏佳	国際関係学部	コロナウイルスからの問いかけ

第24回文芸コンクール受賞結果

部 門	受 賞	氏 名	所 属	作品名
詩	最優秀賞	坂井田夢	経営情報学部	いつかきっと
	優秀賞	室伏琢磨	薬食生命科学総合学府	本当の声
	優秀賞	高平佳奈	国際関係学部	夜更かし
	佳作	大長薫	食品栄養科学部	あしをくむ
	努力賞	大庭武志	経営情報イノベーション研究科	海
俳句	最優秀賞	滝川さつき	国際関係学研究科	図書館にて
	優秀賞	石原恭輔	食品栄養科学部	散歩
	優秀賞	久野匡慶	食品栄養科学部	静岡県民
	佳作	所春奈	薬学部	県大生の春夏秋冬
	佳作	石原祥子	事務局	私のこの一年
	努力賞	室伏琢磨	薬食生命科学総合学府	稲穂
	努力賞	待寺りさ子	薬学部	県大で過ごす最後の秋
	努力賞	佐藤真維	食品栄養科学部	一人の時間
	努力賞	大長薫	食品栄養科学部	冬、原付で大学に向かうとき
イラスト	優秀賞	小野創来	国際関係学部	秋は夕暮れ
	優秀賞	堀内泉美	事務局	星になった貴方へ
	優秀賞	池田誌花	薬食生命科学総合学府	もどき
	努力賞	福原有希	国際関係学部	耳を澄ませば
写真	最優秀賞	神戸彬光	薬食生命科学総合学府	明けの明星と真夏のオリオン
	優秀賞	松浦咲季	薬学部	ひとやすみ
	佳作	ジョセリンネオワントン	国際関係学部	華麗なる夕陽
	佳作	玉舟亮太	薬食生命科学総合学府	水面の夜景
	佳作	石原恭輔	食品栄養科学部	はばたき
	佳作	李江華	国際関係学部	息子の背中を追いかけて
	努力賞	山口孝仁	国際関係学部	出航
	努力賞	須田千秋	国際関係学部	追憶
	努力賞	藤澤弥聡	国際関係学部	秋を運ぶ
	努力賞	佐伯奈々	薬学部	野生型ノックアウトキャット
	努力賞	平野夏帆	経営情報学部	こっちを見て
	努力賞	渡邊慧	薬学部	朝露
	努力賞	中山雄太郎	薬学部	眺望
エッセイ・小説	最優秀賞	石原恭輔	食品栄養科学部	元孤児の村暮らし
	優秀賞	鈴木詩織	薬食生命科学総合学府	鷹作青髭物語
	優秀賞	菰田昌生	経営情報学部	父親
	優秀賞	所春奈	薬学部	初恋の記憶
	佳作	大場有喜	国際関係学部	そんな彼女は将来絶対ダメ男に引っかかる
	佳作	安田崇晃	経営情報学部	学びの意義
	佳作	室伏琢磨	薬食生命科学総合学府	気が付いたらコロナうつになっていました
	佳作	渡部瑠名	薬食生命科学総合学府	遠隔授業出席代行サービス

皆様からの寄金へのご協力、御礼申し上げます。(敬称略、寄付日の順)

2020年1月～12月にはばたき寄金に寄付をいただいた皆様 小針進、原田久仁一、堀内賢志、創星会、小林公子、橋川裕之

図書館 だより

コロナ禍の中の図書館

附属図書館では、「3密」を避けるため、閲覧席の席数やグループ室等の使用、学外者の入館など、利用を制限する措置を取らせていただいています。本来は仲間と話し合いながら学修するコミュニティの場としてのLCフロア(草薙図書館)も、現在、個別学修の場として利用していただいています。

このような中、学内ネットワークに快適に接続し、遠隔授業が円滑に進められるよう、館内のWi-Fiアクセスポイントを増設しました。

また、通学する機会が少なくなっているためか、文献複写依頼が増加しています。このような現状に鑑み、複写物の受取りや費用支払等、来館を伴わないサービスを開始しました(詳細は、本学ホームページをご覧ください)。

新型コロナウイルス感染防止のため、いろいろとご不便をお掛けしますが、今後も可能な限り教職員や学生の皆様のニーズに応えていけるよう、様々な工夫をまいります。



個別学修の場として使用しているLCフロア



私の一冊の本



著者：和辻哲郎
出版社：ちくま学芸文庫
出版年：2021年4月
ISBN：9784480094544
請求記号：080C 441256

学生時代を奈良で過ごしました。キャンパスは東大寺も興福寺も徒歩圏内で、部活でグラウンドを走っていると小鹿が伴走してくれます。

和辻哲郎の『古寺巡礼』は、そんな環境で学ぶ女子大学生にとって暗黙の必携書でした。

奈良市内であれば徒歩や自転車で、国鉄やバスを使えば1時間程度で法隆寺や薬師寺、唐招提寺などの名刹に行くことができます。週末や講義の空き時間を使って、様々な古

紹介者 経営情報学部 教授 大久保あかね

紹介図書 古寺巡礼(初版)

寺を巡りました。もちろん『古寺巡礼』を携えて、と言いたところなのですが、当時の私にとってはなんと難解でした。読みにくい文章にめげて、初めの数ページで挫折。格好をつけて持ち歩いてはいたものの、目次から目指すお寺を拾い読みするだけの本でした。

ところで、母校では1年次の教養科目に「美学美術史」という、薄暗い教室でひたすら仏像のスライドを見る講義がありました。テーマは「仏像の神秘性を表現するルールと、美術品としての価値」だったように思います。仏像は千数百年前の仏師たちが細かなルールに忠実に作り上げた作品であり、多くの人々の祈りによって醸成された価値がある、と学びました。そして教室で眺めたスライドと違い、薄暗い本堂で仏像と向き合うと感じる、あの「しん」とした瞬間が好きになり、とにかくさんの仏像に会うために、様々な古寺に通いました。

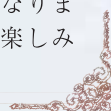
今でも一番好きな仏像は、浄瑠璃寺の吉祥天です。それは美しく、透き通るような色白で、ふっくらとした頬。衣

装も、身に着けているアクセサリーも華やかで、一目見て虜になりました。間違いなく日本で一番美人な仏像です。ぜひ一度、浄瑠璃寺に会いに行くことをお勧めします。

和辻哲郎も京都から奈良に到着したその翌日に浄瑠璃寺に足を運んでいます。

『古寺巡礼』の初版が発行されたのは1919年、和辻哲郎が美術研究を志した20代後半に奈良の寺社を旅した「印象記」です。つまり100年前に20代の若者が書いた本です。ところが仏像や寺の伽藍はもちろんのこと、寺に向かう道筋や風景、沿道の街並み、空気感まで、今現在の奈良でも違和感なく当てはまってしまうことに驚きます。

不思議なことに学生時代には数ページで挫折した、あの難解に思えた文体は、今読むと初々しいエネルギーが感じられ、描写にも共感するばかり。あの薄暗い教室で学んだ講義もよみがえります。卒業後30数年かかりましたが、『古寺巡礼』がようやく本来の意味での必携書になりました。次の奈良旅行が楽しみです。



奨学金授与式が行われました

本学では、有意義な学生生活を支援していくために、地元企業等の奨学団体の協力による各種奨学金制度を設けています。

今年度は、地域の地元企業 12 社から計 34 名の学生が奨学金をいただきました。

2020 年 6 月から 10 月までの間に奨学金授与式が執り行われました。

「しずぎんアジア留学生奨学金」授与式

中止

- 国際関係学部 3年 清水 胡桃
- 国際関係学部 3年 MUHAMAD ROBY AL AHADI
- 薬学部 2年 沙 沛瀚
- 経営情報イノベーション研究科 修士2年 孫 明

「万城食品奨学金」授与式

中止

- 薬学部 2年 佐藤 理絵

「TOKAIグループ奨学金」授与式

6月22日

- 薬学部 4年 河合 明佑未
- 食品栄養科学部 4年 迫口 瑳夢得
- 経営情報学部 2年 松山 和揮
- 国際関係学部 4年 DOAN THUY LINH
- 国際関係学研究科 修士2年 NICO DANIEL



「静岡ガス奨学金」認定証授与式

7月15日

- 経営情報学部 4年 山ノ内 はる香
- 薬食生命科学総合学府 博士前期1年 剣持 麻奈斗



「静岡信用金庫奨学金」授与式

7月31日

- 薬学部 1年 河合 佑美
- 経営情報学部 1年 古澤 悠未



「ロッキー奨学金」授与式

中止・10月19日欠席

式典中止

- 薬学部 5年 林 勇寿
- 食品栄養科学部 2年 桑原 マリオ マサミ サカモト
- 国際関係学部 2年 瀧 みずほ

10月19日欠席

- 看護学部 3年 中川 真里
- 食品栄養科学部 3年 増田 みゆ
- 看護学部 4年 加納 真海

「自然の恵み財団奨学金」授与式

7月21日 Zoom

- 食品栄養科学部 1年 中村 亨太

「天野回漕店奨学金」授与式

7月30日

- 国際関係学部 3年 NGUYEN THI ANH DAO
- 経営情報学部 3年 TRAN THI BICH KIEU



「村上奨学財団奨学金」授与式

9月18日

- 薬学部 2年 牧田 すずか
- 国際関係学部 2年 山中 夏鈴



「エンケイ財団奨学金」授与式

9月18日 Zoom

- 国際関係学部 4年 棕本 佳織
- 国際関係学部 2年 山口 舞葉
- 薬食生命科学総合学府 博士前期1年 池野 竜
- 国際関係学部 4年 ADRIANSYAH KEVIN MANDALA
- 国際関係学部 2年 WOO WEI JIE
- 国際関係学部 2年 VO HOANG PHAT
- 国際関係学部 1年 NGUYEN HAI LINH

「スルガ奨学財団奨学金」

- 国際関係学部 3年 REVI VANI LAVANIA HERMAWAN

「Sun&Sun総合保険奨学金」

- 食品栄養科学部 1年 中村 亨太

地元企業等による本学学生への奨学金

奨学金名称	給付金額	支給期間	応募資格	令和2年度採用人数
しずぎんアジア留学生奨学金	月額10万円	2年間	アジア地域からの国籍を有する留学生、 アジア地域の高等教育機関へ3ヶ月以上の留学を予定する日本人学生	日本人1人、留学生3人
万城食品奨学金	月額5万円	1年間	学部1年生又は2年生の日本国籍もしくは永住権を有する学生	1人
TOKAIグループ奨学金	月額5万円	1年間	全学生（研究生、科目等履修生含む）	日本人3人、留学生2人
静岡信用金庫奨学金	月額5万円	1年間	静岡県内出身の学部生	2人
静岡ガス奨学金	月額5万円	1年間	学部生・大学院生	2人
ロッキー奨学金	年額20万円	一時金	静岡県内に在住もしくは勤務する勤労者の子弟で2年生以上の者	6人
東海澁粉国際交流奨学基金	月額3万円	1年間	アジアからの留学生のうち修士または博士前期課程の大学院生	採用なし
天野回漕店奨学金	月額5万円	1年間	中国・東南アジアからの留学生のうち学部2～3年生	留学生2人
村上奨学財団奨学金	月額3万円	1年間	学部2年生の者	2人
エンケイ財団奨学金	月額2万円	1年間	学部生・大学院生・アセアン諸国からの留学生	日本人3人、留学生4人
自然の恵み財団奨学金	月額3万円	2年間	食品栄養科学部の1年生	1人
スルガ奨学財団奨学金	月額5万円	2年間	留学生で学部3年生	留学生1人
ビヨンス国際育英財団奨学金	月額1万円	1～4年間	留学生のうち学部1～3年生	採用なし
Sun&Sun総合保険奨学金	月額3万円	1年間	学部1年生の日本人学生	1人

教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイトのニュース&トピックスからご覧いただけます。

	受賞者名	所 属	受 賞 名
教 員	笠原 民子 講師	経営情報学部	Association of Japanese Business Studies (AJBS)2020年次大会 Palgrave Macmillan AJBS Best Paper Award
	金沢 貴憲 准教授	薬学部	第12回日本DDS学会 奨励賞
	串田 修 講師	食品栄養科学部	日本栄養改善学会 2020年度奨励賞
	王 齊 特任助教	食品栄養科学部	公益社団法人環境科学会 論文賞
	徳村 雅弘 助教		
学 生	三宅 祐一 助教		
	雨谷 敬史 教授		
	藤田 優香	薬学部	第35回老化促進モデルマウス (SAM) 学会学術大会 若手研究奨励賞
	澤野 桃子	薬食生命科学総合学府	日本食品工学会第21回年次大会 優秀発表賞
	藤田 優香	薬学部	第19回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム2020 優秀発表賞
	黒川 香緒里	薬食生命科学総合学府	2020年度日本農芸化学会第187回中部支部例会 中部支部企業奨励賞
	佐伯 奈々	薬学部	フォーラム2020：衛生薬学・環境トキシコロジー 新人賞
	高西 潤	薬学部	第62回天然有機化合物討論会 奨励賞
	鈴木 菜佑	食品栄養科学部	環境科学会2020年会 最優秀発表賞（富士電機賞）
	清 健人	薬食生命科学総合学府	環境科学会2020年会 優秀発表賞（富士電機賞）
生	小林 琢磨	薬食生命科学総合学府	日本環境変異原学会第49回大会 ベストプレゼンテーション賞
	森 優太	食品栄養科学部	

※2020年7月から12月末までに本学の公式ホームページに掲載依頼のあった受賞を掲載しています。
※役職は受賞時のものです。

教員人事

◆採用

●専任教員	2020年5月1日付
菅野 裕一朗 薬学部薬学科 講 師	
●特任教員	2020年5月1日付
竹田 裕子 食品栄養科学部栄養生命科学科 特任助教	
●特任教員	2020年9月1日付
エリナ アルシワサガ 言語コミュニケーション研究センター 特任講師	
●専任教員	2020年10月1日付
山田 幸平 薬学部薬学科 助 教	

◆退職

●専任教員	2020年7月31日
望月 智貴 食品栄養科学部環境生命科学科 助 教	
●専任教員	2020年9月30日
下吹越直子 看護学部看護学科 講 師	
●専任教員	2020年12月31日
本間 一江 食品栄養科学部栄養生命科学科 助 教	

◆昇任

●専任教員	2020年6月1日付
佐藤 秀行 薬学部薬学科 准教授	
●専任教員	2020年10月1日付
江上 寛通 薬学部薬科学科 准教授	
小西 英之 薬学部薬科学科 准教授	
須田 孝司 国際関係学部国際言語文化学科 教授	
小窪 千早 国際関係学部国際関係学科 准教授	
林 恵嗣 短期大学部（一般教育） 教授	
●特任教員	2020年10月1日付
西 恭之 グローバル地域センター 特任准教授	

教員活動評価における業績優秀者への学長表彰

静岡県立大学では、教員の教育研究活動等の一層の向上を図ることを目的として、教員活動評価を実施しています。2020年12月21日、2019年度（令和元年度）の教員活動評価における業績優秀者16人に対して、学長表彰を行いました。

学 部 等	職位	氏 名
薬学部 薬学研究院	教授	渡辺 賢二
	准教授	石川 吉伸
	准教授	水野 初
	助教	田中紫葉子
食品栄養科学部 食品栄養環境科学研究院	教授	伊吹 裕子
	准教授	原 清敬
	助教	中野 祥吾
	教授	高畑 幸
国際関係学部 国際関係学研究院	准教授	坂巻 静佳
	准教授	米山 優子
	教授	岩崎 邦彦
	教授	湯瀬 裕昭
経営情報学部 経営情報イノベーション研究科	教授	鈴木和香子
	講師	鈴木和香子
	講師	前野真由美
	准教授	野口 有紀
短期大学部	准教授	江原 勝幸

静岡県立大学おおぞら基金に寄付をいただいた皆様（令和2年1月～令和2年12月）

静岡県立大学販売協力会 (株)県大文化通信 眞鍋史乃 嵯峨野(株) 田村正尚 中村芳則 中山啓子 石津忠慶 橋本博美 鬼頭宏 野畑七海 堀田薫 川岸拓史 山本六三 小林公子 河原崎泰昌 静岡女子短期大学静岡女子大学同窓会おとり会 田中千代子 宮村由起子 吉村梨佐 静岡学生NGOあおいOBOG有志 山本みゆき 熊澤茂則 小松芳枝 澤井亨 小針進 渡邊聡 井口雅浩 神戸重敏 吉村文彦 小谷和之 寺尾康 杉山眞澄 高畑幸 岩崎邦彦 鈴木正敏・琴江 松田恵梨子 山田静雄 池田哲夫 澤崎宏一 今井康之 石川准 立花明彦 原清敬 岩瀬珠美 松浦博 山梨智也 赤池勇治 森葉子 紅林佑希 鈴木隆 木村未歩 深江久代 佐藤瑠美 森朋子 山本学 奈倉京子 市川陽子 水野かほる 伊藤聖子 新井映子 松浦崇 吉田直樹 小林佐知子 川島千絵 沼田実 佐藤真千子 石川智久 井上和幸 柳下福蔵 太田正博 森野智子 合田敏尚 山崎綾香 奥村昭博 大久保あかね 梅本哲也 有泉宇宙 酒井坦 坂田昌弘 一般財団法人 静岡経済研究所 石川大祐 高木剛 岩崎清悟 仲井雪絵 ハラダ城南医院 畑中純子 小谷俊俊 眞鍋敬 山下光 国際関係学部・研究科同窓会 朴淳香 廣部雅昭 浅間哲平 下位香代子 水本あつみ 望月友美子 宮崎靖則 成島悠太 嵯峨隆 原田久仁一 堀江葵 中村和美 長谷川泰子 園部尚 青山直樹 栗林則和 留奥志保 増井浩二 山本知成 長澤利枝 北上真一 鈴木桂子 静岡ガス(株)卒業生一同 関森勝夫 西田在賢 薬科徹 坂田佳弘 林恵嗣 出川雅邦 藤井敏 小林みどり 上野稔勝 尾池和夫 富田勲 深井誠一 濱瑞紀 室伏康男 堀内賢志 福島恭子 天野ゆかり 奥田都子 賀川義之 小幡壮 泉谷佳那 安藤紀子 本間幸一 木村良平 孕石和子 田中紫葉子 鈴木明美（おとり会会長） 食品栄養科学部後援会 那須恵子 渡邊理香 伊豆見元 薬学部後援会 経営情報学部後援会 高瀬幸子 田島紗都美 松山真 国際関係学部後援会 一木正聡 藤井敏 三崎健太郎 佐々木崇光 三浦進司 匿名希望39名（順不同、敬称略）

はばたき

次号143号は2021年7月発行の予定です。

142号 2021年2月15日発行
発行元／静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学 広報企画室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
- TEL／054-264-5130 ■FAX／054-264-5099
- E-mail／koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL／https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/



ご意見・情報をお寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほか、ご卒業生などに関連する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

広告

「はばたき」読者限定!

県大生応援キャンペーン!!

2021年 (お申込時にこの冊子をご持参下さい)
2/16(水)~4/29(木)までに
ご入校の方に
5,000円分の
クオ・カードを
プレゼント! ¥5,000

※普通自動車で入校の方が対象です
 ※限定解除の方は対象外とさせていただきます

古庄は
特典がいっぱい

- 優先予約で短期取得可
- 再検定料一切不要
- 技能オーバー無制限保証
- 夜間料金無料

免許は取ったけどしばらく
 乗ってないから運転が不安で...

卒業生特典
ペーパードライバー講習
1時間無料
 ※普通車のみ：2・3・8月を除く

お申込みは
 フリーダイヤル **0120-155-168** | 携帯からでもOK
 ※チラシを見たとお伝えください。

公認 古庄自動車学校

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄3丁目11番15号
 TEL.054-261-1551
 FAX.054-264-0940
 URL <http://www.flushyou.co.jp>
 Mail main@flushyou.co.jp

成人式衣裳 rental

静岡市の高品質でおトクな
男性袴&ふりそで レンタル取扱店

<POINT>
 高品質なのに
 お求めやすい

店舗内で
 お支度全て
 可能です

静岡市の着物レンタル専門店

京都むらまつ**0120-144-081**

店舗：静岡市葵区馬場町25-2 (静岡浅間通り商店街)

営業：9時30分～17時00分 (水曜定休日)

京都むらまつ



成人式 卒業袴 レンタル

静岡の60年以上の安心のお店
 Kyoto Muramatsu
京都むらまつ

卒業はかま rental

県内トップクラスの品揃え

<POINT>
県大生向けの
すごく便利なサービス
「便利な場所でお支度など」

詳しくは、HPの指定校情報をご覧下さい